

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400598		
法人名	社会福祉法人 正寿会		
事業所名	グループホームひまわり荘		
所在地	神崎郡市川町下牛尾2537番1 (電話) 0790-27-0900		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(平成20年8月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算	5.52人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造瓦葺平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A:39,000円 B:33,000円 C・D:30,000円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田隅内科、田隅歯科、アキタケ外科
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

市川町唯一のグループホームとして、静かな山あいの自然あふれる環境にある。法人の特別養護老人ホームに隣接しており、他のサービス利用や職員との交流もある。利用者と職員の馴染みの関係ができており、人間関係やコミュニケーションも良好で、おだやかな雰囲気の中で過ごされている。町外のグループホームとの連携や交流にも取り組んでいる。訪問医療の連携も取れている。山間にあるため、地域の自治会や消防団との災害対策や行政との連携について、運営推進会議での検討が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価の課題であった、理念・基本方針・運営方針について職員全体で検討が行われた。引き続き、地域密着型サービスの特徴を活かした理念の検討が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価も管理者だけでなく、全職員で取り組んでいる。毎日のミーティングやチャートの活用などを通して、職員間の情報の共有などに取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	平成19年9月、平成20年1月に運営推進会議を実施し、地域代表者や家族に参加してもらい、評価結果の報告を行っている。グループホームの取り組みの理解や協力を求めており、双方の意見交換が行われている。地域とのつながりをさらに深め、より外部の意見を取り入れられるよう概ね2カ月に1回以上運営推進会議を開催することが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	行事の後の時間を使い、法人全体の家族会を行い、その際にグループホーム利用者家族のテーブル席を設置し、話し合いの機会を設けている。普段から、職員は包み隠さず話し合える雰囲気を作り出している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域の方から旬の野菜を届けてもらったり、グループホーム用に、畑の芋や野菜を確保してもらったりしており、収穫時には利用者が毎年参加している。また、複数の学校への行事参加や地域ボランティアの外出支援によるおでかけを実施している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念は、法人の理念である「人間の尊厳を守る介護の実践」を基に、「利用者を主体とした生活スタイルの確保・地域との交流」を運営方針としている。		運営方針でもある地域との交流という地域密着型サービスの特徴を活かしたグループホーム独自の理念の検討が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人職員全員でグループ討議を行い、理念の共有を図っている。その理念が、グループホームでの実践に活かせるように、1日1回の引き継ぎの中で話し合い、確認するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方から旬の野菜を届けてもらったり、グループホーム用に、畑の芋や野菜を確保してもらったりしており、収穫時には利用者が毎年参加している。また、複数の学校への行事参加や地域ボランティアの外出支援によるおでかけを実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回も自己評価は管理職だけでなく、全職員で取り組んだ。前回の課題であった理念については、全職員での検討が行われた。また、前々回の課題であった介護計画についても、定期的に委員会を開催するなどして改善に向け引き続きの取り組みを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成19年9月、平成20年1月に運営推進会議を実施し、地域代表者や家族に参加してもらい、評価結果の報告を行っている。グループホームの取り組みの理解や協力を求めている、双方の意見交換が行われている。</p>		<p>地域とのつながりをさらに深め、より外部の意見を取り入れられるよう概ね2ヵ月に1回以上運営推進会議を開催することが期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の職員が、市川町が進める平成20年度の社会福祉関係の策定委員会に4回出席予定であるが、まだ十分な連携には至っていない。</p>		<p>町内で1カ所のグループホームであり、取り組みについての理解やお互いが協力できることについて積極的に話し合いを持つことが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>行事の時や、3日に1度の頻度で訪問される家族に対しては、暮らしぶりについて口頭で説明している。また、ひまわり通信や事業所内の写真掲示で、利用者の暮らしぶりを報告している。個別のこづかい帳を作成し、事務所で管理しており、毎月定期的に金銭管理の様子を報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>行事の後の時間を使い、法人全体の家族会を行い、その際にグループホーム利用者家族のテーブル席を設置し、話し合いの機会を設けている。普段から、職員は包み隠さず話し合える雰囲気を作り出している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動による利用者へのダメージを防ぐために、利用者は法人内職員と顔なじみの関係を築いている。職員の出産後も、地元出身の職員が職場復帰できるような勤務体制づくりができています。今後、離職しない対策に取り組んでいく姿勢がある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の経費により、公務出張扱いで外部研修に参加し、報告書を提出している。まだ研修を受講していない職員を優先し、研修への参加を促すよう配慮している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内だけでなく、町外のグループホームとの交流を行い、ネットワークづくりを行っている。他ホームの見学や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		<p>引き続き意見交換を行いながらも、そのネットワークを活かして学習会を開催したり、そのような場に現場の職員も参加できるような機会の確保が望まれる。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に本人・家族一緒に見学に来てもらっている。併設施設からホームへ移る場合は、職員が利用者を訪問して、馴染みの環境が作れる工夫を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>現在は全員が女性の利用者で、料理や洗濯干しなど、得意なことをしてもらっている。これまでに得た知恵を教えてもらうという思いで、調理の仕方、挨拶文の書き方などを教えてもらい、コミュニケーションを十分とりながら、共に支えあう関係を築いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者同士の会話をソファを利用して楽しむことが多い。利用者が職員に訴える時は、ゆっくり聞き取って、引き継ぎノートに記入している。職員は利用者や家族との会話が、コミュニケーションがよく取れている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の行動面・認識面を判定するKOMIチャートや身体面を判定するレーダーチャートを活用し、職員間で議論を重ねながら、利用者本位の介護計画が作成できるようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日常で変化があれば、介護計画に特記している。3カ月に1回の介護計画の見直しをしているが、毎日のミーティングでも利用者について話し合っている。状態に変化があれば、面会時に家族の意向を聞き取り、介護計画に反映している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院することにより、グループホームに空きができれば、ショートステイ利用者を受け入れている。また、外出・外泊支援については、原則として家族にお願いしているが、できない時は職員が対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>グループホーム入居時にかかりつけ医を田隅内科に移行するケースが多い。急変時は、スタッフ同行で救急車で受診することもある。その都度、家族と話し合い、かかりつけ医以外の病院での受診への合意を得ることにしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に看取りについての事前確認を行っている。状態変化があれば、かかりつけ医や家族に報告・相談し、情報の共有をして方針を決めている。併設の特別養護老人ホームの入浴を利用するなど、連携や工夫を行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への言葉かけについては、職員会議等で研修を行い、お互いに気をつけている。記録については、職員以外の目に触れない場所に保管している。</p>		<p>記録については、よりプライバシーの確保を徹底するため、鍵のかかる場所に保管する等の配慮が望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間や日課などは、おおむね決まっている。しかし、メニュー変更なども柔軟に行われており、利用者のペースに合わせた支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に料理の盛り付けをしてもらったり、片付けやテーブルを拭いてもらったりして、利用者の思いや気持ちを大切に、食事を進めている。また、月に1度、利用者が話し合える場(寄り合い)で希望メニューを決めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体の清潔を保つために、利用者の体調や希望に合わせて、毎日入浴を行っている。おやつの後や夕食後など、時間帯はいつでも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生きる場としての支援を心がけている。利用者の力を活かせるよう要望・意見を出し合える寄り合いを作ったり、ホーム利用を機に句会への支援を行うなどして、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設の特別養護老人ホームとは1カ月に1回、グループホームひまわり荘福崎の家とは3カ月に1回、交流している。少人数の外出は、ボランティアと出かけたり、利用者全員で外出する時は、バスで外出している。また、坂道を散歩したり、喫茶の外食も実施したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが山のすぐ前にあり、裏山に迷い込んだり、玄関前の急な坂道で転倒することが考えられるため、予防として玄関にセンサーがあり、チャイムで外出を知らせることによって、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、夜間訓練や想定避難訓練を実施している。運営推進会議で、地域の消防や区長を交えた防火対策の意見が出ている。</p>		<p>引き続き地域の消防団や区長に働きかけて、土砂災害や山くずれ、山火事などの災害が起こった時の協力体制を構築しておくことが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の献立は、併設の特別養護老人ホームの栄養士が作成したものをベースにしており、栄養バランスに配慮している。起床時、朝食時、10時のおやつ、昼食、15時のおやつ、お風呂あがり、夕食時に水分補給している。また、ホールや居室の冷蔵庫にも水分を確保している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は広く、天井は吹き抜けで、暖炉にまきストーブが設置されており、家庭的な雰囲気である。年代物のステレオからの音楽を楽しんだり、利用者は日中のほとんどの時間をリビングで過ごされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベット以外は、全て持ち込み可能であり、居室も広い。その人らしい思い出の品物が飾られており、居室が居心地のよい空間になっている。</p>		

 は、重点項目。